

フィンドレー大学

ベケット奨学金留学報告書

4月版

獣医学類5年

北名純也

フィンドレー大学ベケット奨学金留学報告書：4月

獣医学類5年 北名純也

酪農学園大学獣医学類5年の北名純也です。最近の日本の天気はいかがでしょう。フィンドレーは、4月初旬こそ春に似合わないぐずついた天気の日もありましたが、最近では25度を超す夏日が続き、アイスがおいしい季節となっています。



晴れた日の木登り

さて、4月も後半に差し掛かり、学期末ということでただいまテスト期間の真っただ中ですが、4月の初めには先月の報告書でもお伝えした通り、自分の研究について学内のシンポジウムで、15分間の英語のプレゼンテーションをする機会がありました。

私の日本での研究は、バクテリオファージというウイルスの一種を使い、その増殖機構を利用して抗生物質に耐性を持つ、薬剤耐性菌に対する新たな薬を作ることです。少々専門的な話になるので詳細は割愛しますが、私の研究室では岩野先生、藤木先生の下、タンパク質の一種である「エンドライシン」という物質に着目して、その効果を評価してきました。そのため、私がフィンドレー大学に来た当初から、一つの目標として、薬剤耐性菌に関する研究に携わるということを掲げており、生物学の Dr. Dean の研究室で、その薬剤耐性菌に関する研究を手伝わせていただくこともできました。今回のプレゼンテーションは、こちらの大学の学生に、獣医大学での研究を伝えるとともに、自分の英語力の向上を目指す集大成の挑戦となりました。後述しますが、Joni の家でのホームステイ中も、医者であるお父さんにプレゼンテーションの練習を手伝っていただくなどして、当日に備えて準備をしました。シンポジウム当日は、20名程度の聴衆を予想していましたが、蓋を開けてみると40名以上もの多くの方に来ていただくことができました。プレゼンテーション終了後には、アメリカ人の友人たちから「Good Job!」と多くのお褒めの言葉をもらい、私もやりきることができたかなと実感することができました。内容も単語も専門的なものが多く、学生の皆さんにうまく伝えられたかどうかはわかりませんが、間違

いなく私の人生の中で大きな経験となりました。

来年度以降もこのシンポジウムは続くと思いますので、ポスター発表を含め、もしチャンスがあれば留学生でも参加されてみることをお勧めします。



プレゼンテーションの様子

また、今月は **University Singers** の一員として、最後の合唱のコンサートがありました。このコンサートの中で私はソリストの一員として歌わせていただくことができました。高校時代にも同様の経験があったため、大きく緊張することもなく無事に大役をやり遂げることができました。この1年間の合唱を通じて、改めて私は合唱が好きであることを確認することができました。一つの時間の使い方として、この留学の中で非常に有意義な時間になったと思います。



合唱のコンサート

また、前述したように3月の後半から4月の頭にかけての **Easter break** に3度目の **Joni** の家へのホームステイをさせていただきました。今回のホームステイでは、教会でイースターのお祈りを体験したり、たくさん食べ物を食べさせてもらったり、今までのお礼の気持ちを込めて日本人で日本食を作って提供させてもらいました。そして、友人のカナコと一緒に作った、写真を使ったプレゼントも渡すことができ、喜んでもらったのでとても良かったと思います。**Joni** は2年前に酪農学園大学に来て、それから仲良くなり、今までに私を含む数々の日本人留学生がお世話になってきました。そして、この度彼女は大学を卒業し、彼女の出身州の獣医大学に進学することが決まりました。当時 **Joni** と一緒に酪農学園大学に来た **Rob** と **Grace**、**Maria** も同様に皆、難関である獣医大学に進学します。個人的に、このフィンドレー大学とかかわってきた中でこのように出会ってきた人たちが、見事夢をかなえて新しい一歩を踏み出す瞬間に立ち会えたことは感無量です。私も近い将来獣医師として社会に出ていくこととなりますが、フィンドレー大学を通して出会ったこの友人たちは、国籍を超えたかけがえのない友人たちであり獣医としての仲間です。これからも情報交換などを積極的に行って、世界のどこにいてもずっと交流していきたいと思います。



日本食の準備中
Joni の姉の **Anna** と愛犬 **フリン**



友人のカナコによる大作
歴代の日本人メンバーの写真とメッセージを添えて

さらに、今月は日本の文化を紹介する活動にも参加しました。まず、先月の **International nigh** で踊ったよさこいを、隣町のボーリング・グリーン州立大学で披露してほしいとの依頼があり、日本人留学生の仲間で踊ってきました。また、川村先生（フィンドレー大学で長年日本語を教えられている、フィンドレーで一番お世話になる先生）にお誘いをいただき、地域の小学校で日本文化を紹介するイベントにも参加してきました。このイベントでは、紙芝居の朗読を担当し、日本の有名な昔話である「傘地蔵」を英語で読み聞かせしました。既製品である英語の紙芝居を読んだのですが、単語や内容的に小さい子には難しい表現があったため、自分なりにわかりやすくアレンジをしました。その作業は言葉を簡単にするだけでなく、内容を簡潔に伝わりやすくすることも必要だったために骨が折れましたが、自分

の英語力を見直す上でも非常に良い経験となりました。



チームフィンドレーのよさこい



傘地藏の紙芝居

このように、4月はフィンドレー大学の学生としての最後の1か月を悔いの残さないように満喫できたと思います。約9か月の留学生活もこのテスト期間に佳境を迎え、残り十日と少しとなりました。様々なことを経験し、大きく成長できていることを実感しています。

留学全体の振り返りは、来月の報告書にてお伝えさせていただきたいと思いますが、日本に帰国する前に、一大イベントが待ち構えています。それは、ケンタッキーオークス観戦です。ケンタッキーオークスとはアメリカ競馬の中で最も位の高いレースの一つで、世界各国から観客が押し寄せます。そのレースのチケットを幸運にも購入することができ、大学の学期が終わり次第すぐ観戦に行く予定です。将来、競走馬の獣医師になることを志している私としては、これ以上ない素晴らしい時間になりそうです。また、さらに大きな幸運を引き寄せることができました。ケンタッキーオークス終了後、ケンタッキー州にある競走馬の生産牧場で1週間実習させていただけることになりました。これは私がこの留学期間に掲げていた大目標のうちの一つです。何とか機会をいただけないかを模索していたところ、幸運にもそのチャンスをいただくことができました。今回の実習を通して、アメリカの競走馬社会についてできる限り多くのことを吸収して今後の人生に活かしていきたいと考えています。これらのレースや実習についても含めて、来月の報告書でお伝えできればと思います。

このように、残り十数日となったアメリカ滞在も最後の最後まで全力で楽しんで、来月に来るフィンドレー大学からの留学生とも最高の思い出を作って、このフィンドレー大学の報告書を完結させようと思います。ここまでお付き合いいただきありがとうございます。

それではまた。



アメリカ風にサングラスをかけた写真
友人のチニーと



大学でのカジノナイト
後日トレドのカジノにて140ドル勝ちました

なにか私に質問等がある方は、こちらまでご自由に連絡ください。

kitanaj@findlay.edu